

GAP部門

農林水産大臣賞

取組の紹介

長野八ヶ岳農業協同組合

所在地	長野県南佐久郡南牧村大字野辺山106番地1
認証	GLOBALG.A.P.
応募区分	団体の部
面積	267ha(認証面積)
構成員	41名
栽培品目	結球レタス、非結球レタス(サニーレタス、グリーンリーフ)

GAPに取り組んだきっかけ

- 持続可能な産地を目指す上では全ての生産者がGAPに取り組むことが必要と考え、長野県GAPの取組推進を図る中、2020東京オリパラへの供給による産地のアピール等に繋がる等の理由から一部構成員でJGAP認証を取得。その後、大手取引先への供給に対し必須条件となったGLOBALG.A.P.認証に移行。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 内部監査員によって検査内容に差が出ないよう、事前に確認事項等について目合わせを行うとともに、GAPに関わる職員の増加を図り、一部の職員に負担がかからないようJA全体でサポートを行う体制を確立。

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

- JAが独自で作成した「GLOBALG.A.P.日誌」とGLOBALG.A.P.用にカスタマイズされた営農支援プラットフォーム『あい作』により、各構成員が自ら営農記録を行う仕組みを構築。記録・確認の効率化により、構成員・事務局ともに事務作業の負担が軽減。
- GISシステムの導入によりほ場管理履歴をデータで一元管理することでほ場確認・情報共有等が簡素化。

経営の改善に向けた取組とその効果

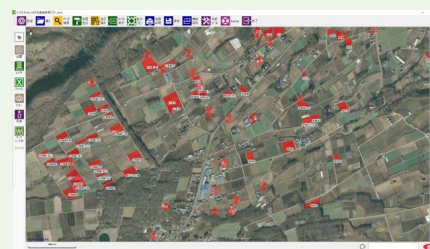
- 構成員の意向確認を行い慎重にGLOBALG.A.P.へ移行するなど、JAと生産者の着実な信頼関係の構築により、構成員数は2年間で29名(R4)→41名(R6)と1.4倍に増加。また、認証品の安定出荷・品質面が評価され、取引先からの生産者MVPを受賞するとともに、販路を拡大し合計の取引数量5,319t(R5)→6,812t(R6)と28%増加。

地域への波及効果

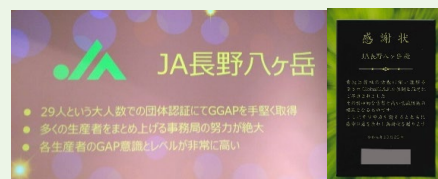
- 「長野県GAPフォーラム」において、県内の農業者、市町村、JA担当者等に向け取組事例を発表。構成員自ら記録を行う仕組みづくりや日誌の作成、JAとしての体制づくりについて紹介。
- コスト削減の為、地域内他団体と内部監査を相互で実施するとともに、日誌を提供。お互い課題を共有しながら「効率化」と「コスト削減」を両立できないか模索。



「あい作」による記録方法(農業散布)



GISシステムの画面の様子



取引先からの表彰



長野県GAPフォーラムでの事例報告の様子